

1. 単元名 「災害がおこったら」

2. 単元の目標

- ・震災時の避難上での留意点、日常的な備えなど、防災上の知識について理解し、自分でできることを実施することができる。 (知識・技能)
- ・震災時の様子を想像し、自分が避難所でどのような行動をすべきか考え、実際にどのようなことができるか他の生徒に伝えることができる。自己理解をし、自分が避難所で何が必要かを考えることができる。 (思考・判断・表現)
- ・避難先でできるだけ安心して過ごせるようにしたいという目的意識を持ち、意欲的に発言をしたり、プリントを記入したりすることができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では実際に震災が起きた際に避難所での過ごし方や、自分自身を他人に説明できるようにすることをねらいとする。災害といういつ起きるかわからないもの、しかし、起きたときには自分の命を左右するものに対してどのように自分で行動するのかを考えることで、実際に災害が起きたときに少しでも自分の身が守れるようになる。

障害のある生徒たちにとって、普段とは異なることや、想像していないことに対して抵抗感が強く普段よりも上手く行動できなくなってしまう。自分自身の機嫌の取り方を知り、他人に伝えることができるようになることで、避難先で知らない人たちにも配慮を求めることができる。また、自分が何をすることができるか知ることで、避難先で他者と協力することができる。

- (2) 生徒観 本学級は中度・軽度の知的障害のある生徒が在籍する学級であり、ほとんどの生徒に発達障害がある。1年生3人、2年生6人、3年生4人の学級である。「総合的な学習の時間」や「道徳・生活」の授業で3学年合同の授業を行っている。生徒らは学年も障害の程度も異なるが、これらの普段の授業から自分の意見を言い、他者の意見を聞き、自分なりに理解することができている。すでに決まっている行事に関してや、想像しやすい事柄に関しては積極的な発言や、思考が見られる。しかし、今後起こるかわからないことや想像しにくいものに関しては、抵抗感が強く興味をもって取り組むことが難しい。そのため、できるだけ災害時の様子が想像できるようにし、自分事として考えられるようにしたい。

- (3) 指導観 実際の避難所の様子や、災害の様子を写真等を通して想像しやすいようにする。また、生徒に対する問いかけや質問は具体的なものにし、1つの事柄に対して時間を使って理解させる。この単元では自分の能力に対して考えるため、自分を知ることはマイナスなことではなく、自分のためであるとポジティブな指導を行う。

(4) ESD との関連

- ・本学習で働かせる ESD の視点(見方・考え方)

公平性…自分のことを理解し、他者に伝えられたり、行動したりすることで避難先で他者と同じように支援を受けられるようにする。

連携性…避難先では日常とは異なり、限られた空間で知らない人たちとともに過ごさなければならず、知らない人たちの中でも自分のできることをすることで他者と協力しようとする。

・本学習で育てたい ESD の資質・能力

未来像を予測して計画を立てる力…いつ来るかわからない災害に対してあらかじめ備蓄することや、起こりうる問題に対して想像し備える力。

コミュニケーションを行う力…自分のことを知らない周りの人と過ごすために自分のことを伝える力。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

世代内の公平…自分だけではなく、避難所には高齢者や幼児がおり、よく動ける中学生である自分たちが手伝うことで、どんな人でも避難所で安心して過ごせるようにすることが大切である。

・達成が期待される SDG s

3 すべての人に健康と福祉を

1 1 住み続けられるまちづくりを

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①災害時の避難上の留意点や日常的な備えなど、防災上の知識について理解している。 ②クロームブックを用いて避難所や避難場所を調べている。	①災害時における起こることを学んだうえで、自分にどのようなことが起こるのかを考えている。 ②自分について考えたことをプリントに表現している。	①避難訓練に積極的に参加しようとしている。 ②自分で考えた意見を発言しようとしている。 ③備蓄をしようとしている。 ④自分のことを他者に伝えようとしている。

5. 単元の指導計画(全9時間)

次	主な学習活動	学習への支援	評価(△) 備考(・)
1	<p>●避難訓練は何のためにあるか考える。</p> <p>・避難訓練に対して苦手意識のある生徒を中心に避難訓練は自分の命を守るためにしているなど避難訓練の大切さについて学習し、考える。</p> <p>・避難訓練の方法や避難経路を学ぶ。</p>	<p>・小さな音でシェイクアウト訓練の音声を聞かせて、内容を理解させるとともに慣れさせる。</p> <p>・校内図を用い</p>	△ア①

		て、避難経路を確認させる。 ・避難の体勢のイラストを用いて練習させる。	
2	<p>●避難訓練を行う。</p> <p>・避難訓練の方法に従い、教員の指示に従い避難を行う。</p> <p>●避難訓練の振り返り</p> <p>・避難訓練の様子を振り返り、自分や周りがあった体勢だったか、教員の指示に従っていたかを振り返る。</p>	<p>・大きな声ではっきりと指示を行う。</p>	<p>△ウ①</p> <p>△ウ①</p>
3	<p>●避難経路上で問題が起きた時どうするかを考える。</p> <p>・避難経路がふさがっている場合を考え、違う道から逃げる方法や、安全に逃げる方法を考え、実際に歩いてみる。</p>	<p>・考えやすいように様々な場合を提示する。(棚が倒れてきたら、窓ガラスが割れたら、など)</p>	△ウ②
4	<p>●家の周りや学校のまわりの避難場所を調べる。</p> <p>・クロームブックを用いて自分の家の周りや、通学路のまわりでどこに避難場所や避難所があるのかを探す。</p> <p>・電車やバスを使っている時に災害に合ったらどうするか考える。</p>	<p>・クラスルームにYahoo!避難場所マップのURLを載せる。</p> <p>・検索のしかたを電子黒板を用いて提示する。</p>	△ア②
5	<p>●避難先で必要なものを知り、考える。</p> <p>・災害が起きたときに水や電気が止まってしまうことを学習する。</p> <p>・普段の生活の中で生きるために無いと困るものを考え、意見を言う。</p> <p>・その中から災害が起きた時のために備蓄すべきものを考え、意見を言う。</p>	<p>・災害によって止まってしまうインフラを教える。</p> <p>・避難場所の写真を見せ、避難している人の周りには何が置いてあるのかを見せる。</p>	<p>△ア①</p> <p>△イ①</p> <p>△ウ②</p>
6	<p>●避難先で必要なものをそろえる。</p> <p>・前時で考えた必要なもの(水や下着など)を家から持ってきたり、緊急避難セットの中身を確認したりする。</p>	<p>・家から持ってきたか確認する。</p> <p>・学校に常備している緊急避難セッ</p>	△ウ③

	<ul style="list-style-type: none"> ・さらに学校で準備しておけることを考え、意見を言う。(水道まわりの水など) 	<p>トを開け、中身を見せる。それぞれ何に使うか、何のためにあるのかを教える。</p>	△ウ②
7	<ul style="list-style-type: none"> ●避難先で自分ができることを考える。 ・避難場所にはどんな人がいるか考え意見を言う。 ・高齢者や小さな子どものために何ができるか話し合う。 ●避難先でのハプニングに対して考える。 ・様々なハプニングが書かれたカードから1枚引き、そのハプニングに対してどのように対処するかシミュレーションをしながら考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難時の様子が想像できるように問いかけをする。 ・避難場所では、中学生がどんな存在か教える。 ・ハプニングカードの作成。イメージしやすいようにイラストを添える。 	<p>△ウ②</p> <p>△イ①</p> <p>△イ①</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> ●自分のことを知り、まとめる。 ・住所や保護者の電話番号。苦手なこと、得意なこと、何があったら落ち着けるのかなど自分のことをプリントにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの項目を記載したプリントを作成する。 ・1項目ずつ丁寧に進める。 ・苦手なことを理解することの大切さを教える。 	△イ②
9	<ul style="list-style-type: none"> ●自分のことをまわりに伝えてみる。 ・隣の人や周りの人に自分のことをまとめたプリントを見ながらでも説明する。 ●家族との連絡の取り方のかんがえる。 ・災害が起きた時の保護者との連絡を取る手段を考える。 ・考えたことをプリントにまとめ、家で家族と話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのペアの様子を見て都度アドバイスを行う。 ・いろんな連絡の取り方を提示する。 	<p>△ウ④</p> <p>△イ①</p>